

株主の皆様へ

第45期 報告書

平成20年4月1日～平成21年3月31日



立山・劔と立山カルデラ（空撮）

立山黒部貫光株式会社

株主の皆様へ



代表取締役社長 中村 憲史

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成20年度のわが国経済は、原油、原材料価格の高騰や、サブプライムローン問題に端を発した金融不安が高まる中、弱含みで推移してまいりましたが、秋以降、米国発の金融破綻をきっかけに百年に一度といわれる経済危機が深刻化し、底の見えない景気の低迷が続きました。

当社を取り巻く観光業界では、7月に東海北陸自動車道が全線開通し、広域圏内での交通の利便性が一層向上した一方、燃料費の高騰や景気後退に伴う個人消費の冷え込み、円高など経済環境の目まぐるしい変化と、多様化・高度化する旅客ニーズや、激化する価格競争、地域間競争の中で、事業環境はなお一層厳しい状況となりました。

こうした中、20年度の立山黒部アルペンルートの入り込み状況は、「雪の大谷ウォーク」による旅客増を核として前半は順調に推移いたしました。8月以降、天候不順や、急激な景気の後退により前年を下回ることとなりました。この結果、年間の入り込み合計では1,016千人となり、お陰様で当期の第一の目標に掲げておりました入り込み人員100万人の回復は、何とか達成することができました。

しかしながら、その内容を見ますと、国内旅客の減少傾向には歯止めがかかったとは言えず、また前年に引き続き高い伸びを示した海外からのお客様につきましても、秋以降、円高や景気の低迷により前年を下回り、決して樂觀できる状況ではありません。

これらを踏まえ、21年度の営業におきましては、特に国内旅客の回復を重点課題に掲げ、積極的なセールス活動と、多様なPR活動を展開して大都市圏を中心とした誘客を推進するとともに、各種企画、イベントの充実等により、リピーターの増加に力を注いでまいりました。21年度に入り、これまでのところ、これらの誘客活動に加え、テレビドラマ「黒部の太陽」、映画「劔岳 点の記」、高速道路千円化、善光寺ご開帳などが相まって、国内旅客が前年に比べ増加しており、最盛期に向け、誘客促進の取り組みを一層強化してまいります。

また、海外からの旅客につきましても、21年度に入り、予想された経済危機、円高による影響に、新型インフルエンザによる混乱が加わり、現在のところ前年に比べ大幅な減少となっておりますが、アルペンルートそのものの集客力は依然衰えておらず、また東アジアを

中心に潜在的な市場はいまだ有望であるとみており、旅客動向の推移を慎重に見極めつつ、引き続き関係団体と連携したPR活動を継続して、旅客の確保に取り組んでまいります。

これにより、平成21年度におきましても、入り込み人員100万人の維持を最重要課題とし、あわせて、収益性の向上と、経営効率の改善に努める所存です。

なお、去る平成21年4月25日に発生した立山高原バス脱輪事故におきましては、乗っておられた方々にお怪我を負わせると共に、乗客の皆様全員にご苦痛とご迷惑をおかけすることとなりました。また、関係機関ならびに関係各位にも多大のご迷惑とご心配をおかけいたしました。関係者ならびに株主の皆様に対し、重ねて、深くお詫び申し上げる次第であります。この度のような事故を二度と起こさないために、事故直後から、安全管理の徹底と、安全教育の再構築に取り組んでおり、今後とも信頼の回復に更に全力を注いでまいります。

宇奈月国際ホテルにつきましては、経済情勢、経営環境を踏まえ、子会社である立山貴光ターミナル株式会社へ経営委託して、ホテルを一元経営することといたしました。これにより、運輸事業は当社が、ホテル事業は立山貴光ターミナルが担当して、それぞれの事業に専念する体制のもと、効率的運営と販売力の強化をはかってまいります。

これからも、故佐伯宗義初代社長の創業の理念を受け継ぎ、世界に誇る国際山岳観光地「立山黒部アルペンルート」ブランドの確立に全力を傾注するとともに、株主の皆様のご期待にこたえるべく、企業価値の向上に努めてまいります。

また、創業以来一貫して掲げております「安全確保」と「大自然の環境保全」という命題につきましても、更なる改良改善に努め、安全快適で環境に優しいアルペンルートを構築して、地域の振興に寄与してまいりたいと考えております。

今後とも、株主の皆様には、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。

アルペンルート クローズアップ

立山研修会館

立山開発の歴史に学び、創業者佐伯宗義の独自の哲学と理念を継承し、立山黒部アルペンルート建設の歴史的意義を後世に伝える目的で、平成13年に開設された社内研修施設。

戦後まもなく建造された木造2階建ての建物は、かつて「観光会館」と称され、佐伯宗義事務所、観光連盟事務所、立山開発鉄道(株)本社、地鉄関連企画室など多目的に利用されてきました。年月と共に大半が解体されてしまいましたが、由緒あるこの建物の一部を、当時の面影を残しつつ改築を施し、「立山研修会館」として整備しました。

現在は、主として社員の研修施設として利用されていますが、その一部を資料室とし、アルペンルート開業前の写真や、アルペンルート建設に関する資料をはじめ、佐伯宗義の直筆の書簡、事務机などを展示公開しています。

立山研修会館

住所：富山市新桜町9番9号



玄関



立山資料室

平成20年度事業概況

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

当期の立山黒部アルペンルートは、前年同様、4月10日に、富山側は立山～弥陀ヶ原間、大町側は信濃大町～室堂間が営業を再開し、4月17日には、立山～信濃大町間が全線営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。当期の営業の経過は、前年の能登半島地震の影響を払拭するための国内外での積極的な誘客活動と、「雪の大谷ウォーク」のゴールデンウィーク中の開催や散策コースの変更、好天が相まって、4～7月は順調に推移いたしました。8月はゲリラ雷雨などの天候不順により入り込み人員が前年を割り込み、また9月中旬には米国のリーマン・ブラザーズの破綻をきっかけに、景気が一気に後退し、9、10、11月はともに前年を下回ることとなりました。

この結果、当期の入り込み人員は富山側529千人（対前年109%）、大町側486千人（対前年104%）、合計1,016千人（対前年106%、61千人増）となり、お陰様で当期の第一目標に掲げておりました入り込み人員100万人の回復をなんとか達成することができました。

これを旅客の内訳で見ますと、国内のお客様は、888千人（対前年106%）と昨年から持ち直したものの依然減少傾向に歯止めがかかったとは言えない状況にあります。一方、東アジアを中心とした海外のお客様は、国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」や富山県の招聘事業と連携したPR活動が功を奏し、「雪の大谷ウォーク」開催期間の台湾からの「富山チャーター便」や定期便が好調に推移したこともあり、128千人（対前年111%）と本年も順調な伸びを示しました。しかし海外からのお客様は、9月以降、金融危機による急激な円高、株安の影響等もあり減速し、いずれの月も前年割れの水準で推移いたしました。

以上により当社区間（立山～黒部湖間）の輸送人員は、鋼索鉄道線（立山ケーブルカー）798千人（対前年113%）、自動車線866千人（対前年110%）、無軌条電車線770千人（対前年107%）、普通索道線798千人（対前年105%）、鋼索鉄道線（黒部ケーブルカー）814千人（対前年105%）となりました。

この結果、当期の運輸収益は、鋼索鉄道事業9億79百万円（対前年108%）、自動車事業11億37百万円（対前年109%）、無軌条電車事業12億51百万円（対前年107%）普通索道事業7億78百万円（対前年105%）、これに構内販売その他事業収益9億30百万円（対前年102%）を加えた収益合計は50億74百万円（対前年106%）となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、上半期はほぼ前年並みに推移したものの、秋以降、景気後退の影響により、大手旅行者経由の募集型個人客の減少が顕著となり、冬期に入っても、団体、個人を問わず地元を中心とした集客が低迷するなど前年を下回る水準で推移いたしました。その結果、当期の宿泊人員は29,290人（対前年100%）、営業収益は6億16百万円（対前年95%）となった次第であります。

以上全事業の営業収益は56億90百万円（対前年105%）となり、営業外収益51百万円を加えた総収益は57億41百万円（対前年105%）となりました。

次に営業費につきましては、人件費、物件費の圧縮など経営全般にわたる効率化に努めました結果、営業費合計は52億49百万円（対前年98%）となり、これに営業外費用62百万円を加えた費用合計は53億11百万円（対前年98%）となりました。

以上により、当期の経常利益は4億30百万円となり、これに特別損失83百万円、また法人税ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減して、当期純利益は1億69百万円を計上することとなりました。

運輸営業成績表（平成20年度）

| 項目 | | 鋼索鉄道線 (立山ケーブルカー) | 前年比 % | 自動車線 (立山高原バス等) | 前年比 % | 無軌条電車線 (立山トンネルトローパス) | 前年比 % |
|--------|----|---------------------|----------|-------------------|----------|-------------------------|----------|
| 営業キロ程 | キロ | 1.3 | 100 | 82.5 | 100 | 3.7 | 100 |
| 営業日数 | 日 | 235 | 104 | 342 | 100 | 235 | 100 |
| 旅客輸送人員 | 人 | 797,746 | 113 | 866,457 | 110 | 769,816 | 107 |
| 旅客運輸収入 | 千円 | 448,518 | 112 | 1,131,216 | 109 | 1,248,763 | 107 |
| 運輸雑収 | 千円 | 2,725 | 96 | 5,332 | 97 | 1,862 | 68 |
| 収益計 | 千円 | 451,244 | 112 | 1,136,548 | 109 | 1,250,625 | 107 |
| 車両走行キロ | キロ | 29,177 | 111 | 724,637 | 107 | 111,473 | 102 |

| 項目 | | 普通索道線 (立山ロープウェイ) | 前年比 % | 鋼索鉄道線 (黒部ケーブルカー) | 前年比 % |
|--------|----|---------------------|----------|---------------------|----------|
| 営業キロ程 | キロ | 1.7 | 100 | 0.8 | 100 |
| 営業日数 | 日 | 235 | 100 | 235 | 100 |
| 旅客輸送人員 | 人 | 798,283 | 105 | 813,773 | 105 |
| 旅客運輸収入 | 千円 | 776,075 | 105 | 526,924 | 105 |
| 運輸雑収 | 千円 | 1,529 | 75 | 1,050 | 74 |
| 収益計 | 千円 | 777,606 | 105 | 527,974 | 105 |
| 車両走行キロ | キロ | 41,854 | 104 | 15,554 | 98 |

構内販売その他営業成績表（平成20年度）

| 項目 | 構内営業 | 前年比 % | 買貨収入 | 前年比 % | |
|------|------|----------|------|----------|-----|
| 営業収益 | 千円 | 860,177 | 103 | 70,000 | 100 |

ホテル営業成績表（平成20年度）

| 項目 | 宇奈月国際ホテル | 前年比 % | |
|----------|----------|----------|-----|
| 営業日数 | 日 | 365 | 100 |
| 宿泊人員 | 人 | 29,290 | 100 |
| 一日平均宿泊人員 | 人 | 80 | 100 |
| 営業収益 | 千円 | 615,740 | 95 |
| 基本利用 | 千円 | 483,898 | 95 |
| 追加飲食 | 千円 | 37,307 | 91 |
| 施設利用 | 千円 | 29,287 | 90 |
| 売店 | 千円 | 59,166 | 102 |
| その他 | 千円 | 6,080 | 78 |
| 一日平均営業収益 | 千円 | 1,686 | 95 |

財産および損益の推移

| 区分 | 第42期 (平成17年度) | 第43期 (平成18年度) | 第44期 (平成19年度) | 第45期(当期) (平成20年度) | |
|----------------|------------------|------------------|------------------|----------------------|------------|
| 営業収益 | 千円 | 4,469,569 | 5,969,102 | 5,417,146 | 5,689,916 |
| 当期純利益(損失) | 千円 | △449,140 | 125,166 | 18,381 | 168,714 |
| 1株当たり当期純利益(損失) | | △51円2銭 | 13円48銭 | 1円99銭 | 18円66銭 |
| 総資産 | 千円 | 14,294,496 | 13,964,387 | 12,572,530 | 11,951,386 |

(注) 第42期(平成17年度)につきましては、平成17年10月1日に立山開発鉄道線と合併いたしましたので、上期業績(合併前)と下期業績(合併後)を合計したものを記載しております。

平成21年度の取り組み

1 国内旅客の回復

平成20年度の国内旅客は前年比4万8千人増の88万8千人と、19年度において前年より減少した9万1千人の約半数を回復したにとどまり、近年顕著な国内旅客の減少傾向に歯止めがかかったとは言いきれない状況です。

本年は、世界的な経済の混乱による為替相場の不安定により、海外からの誘客に懸念材料を抱えていることもあり、入り込み人員100万人台の安定的な確保には、この国内旅客の確保が最も重要であると考えております。

21年度営業再開前のPR・営業活動では、先行き不透明な経済情勢等を踏まえ、全線開通直後の4月17日から5月31日まで開催される「立山・雪の大谷ウォーク」による誘客促進を中心に、シーズン前半は「雪の壁」に重点を置いた誘客活動を展開してまいりました。

特に、入り込み全体の中で重要な比重を占める募集型ツアーによるお客様を増やすことが国内旅客確保の鍵になると見て、年明け以降、首都圏、関西圏、東海圏など大都市圏からの誘客促進を軸に、大手旅行代理店や鉄道、バス、航空の各社に対し、当ルートを組み込んだ魅力的な旅行商品の造成を働きかけるなど、積極的な営業活動を行いました。

また、富山県、富山県観光連盟、立山黒部観光宣伝協議会等との連携による大型PR事業として、東京山手線での車体ラッピング広告、京都線・神戸線での車内映像広告、名古屋駅構内での柱シート広告の実施等を行うとともに、当社独自でも山手線など大都市の路線に車内広告を行うなど、大都市圏での露出度、認知度を高める宣伝活動を実施してまいりました。

特に本年は、テレビドラマ「黒部の太陽」の放映、映画「剣岳 点の記」の公開があり、上述のPR事業を含め、これらと連携、タイアップした宣伝活動を企画、展開いたしました。

また、個人・地元のお客様に対しましては、夏の立山登拝、市町村デー、立山黒部アルペンルートウォーキングを、本年より夏休み期間中に実施することとしたほか、昨年に引き続き、新ファミリー切符等の得々きっぷ、立山アルペン倶楽部、定期観光バス「たちやま」の運行を実施いたします。また、立山博物館、立山カルデラ砂防博物館、自然保護センターと連携した企画、イベントを実施することとしております。

国内人口の減少、少子高齢化の中にあって国内旅客の確保をはかるには、顧客満足度を高め、何度でも訪れたいくなる観光地として、いわゆるリピーターの増加をはかることが不可欠であります。そのためには、体験型観光地としての更なる魅力づけが課題であると捉えており、「雪の大谷ウォーク」をはじめ、立山アルペン倶楽部、定期観光バス「たちやま」ほか、上述の種々の企画、イベントの充実をはかるとともに、新たな視点から、旅客ニーズを捉え、立山黒部の観光資源を活用する商品づくりを進めてまいります。

また、国内外に対応したホームページのリニューアル等を通じ、WEBを活用した情報発信力の強化をはかってまいります。

2 海外客の誘致

海外からのお客様につきましては、東アジア、特に台湾を中心に韓国、中国（香港）、タイ等からの入り込みが一応の成果を示し、平成20年度には、128千人と、入り込み人員全体の10%を超えてまいりました。

21年度も引き続き台湾から富山空港へのチャーター便が設定されるなど、「雪の大谷」を中心とした立山黒部アルペンルートの人気は依然として高く、営業再開前から各国での積極的な誘客宣伝活動を展開してまいりました。

本年も国の観光立国行動計画に沿った「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(VJC) 事業および富山県の海外客招聘事業との連携によるプロモーション活動を、台湾を核として韓国、香港等で実施するほか、各国の実情に応じたセールス活動の強化に加え、中国本土、東南アジアに営業活動を

広げてまいります。

しかしながら本年は、世界的な景気後退や、円高による訪日観光への影響が懸念されることから、海外からのお客様については迅速な情報収集と動向の把握に努め、機動的な対応に留意してまいります。

3 安全の確保

平成21年4月25日に立山高原道路、通称「七曲がり」地点で発生いたしました立山高原バス脱輪事故におきましては、けがをされた方々をはじめ、乗客の皆様全員に多大の苦痛とご迷惑をおかけするとともに、関係機関ならびに関係各位にご迷惑とご心配をおかけすることとなりました。

また、株主の皆様をはじめ関係の皆様には、この度の事故に関し、ご心配をおかけすることとなり、深くお詫び申し上げます。この度の事故は、当社にとりまして創業以来初めての重大な人身事故であり、二度と起こしてはならない事として重く受け止めております。

この事故を受け、当社では全職場において、安全管理の総点検を実施いたしました。また、点呼の厳正な実施をはじめ日常の安全管理を再徹底いたしました。更に今後、事故原因の詳細な究明とあわせ、安全教育の再構築など、再発防止のための施策を実施してまいります。

また、平成20年8月14日には、立山ロープウェイが落雷に伴う保安回路作動により運休し、お客様に大変なご迷惑をおかけいたしました。当日は、富山側、大町側へそれぞれバスを仕立て、お客様の振替輸送を行いました。関係各社のご協力を得て、幸いお客様にけがもなく無事お送りできましたことに、感謝いたしております。今後、アルペンルート関係各社とお客様のための更なる連携体制の構築に努めてまいります。

運輸事業等を営む当社にとりまして、安全の確保は当然の責務であります。これらの事故、トラブルを踏まえ、「安全が第一」との原点に立ち帰り、日常の安全管理を徹底して行い、安心・安全なアルペンルートの再構築をはかるため、役職員一丸となって努力してまいります。

4 早春の営業再開と自然環境保全

21年度の営業再開は、関係機関のご協力ご配慮を得て、昨年に引き続き、4月10日に大町側は信濃大町から室堂まで、富山側は立山から弥陀ヶ原までの部分開通、4月17日に全線で営業を再開いたしました。開業にあたっては、昨年同様、厳冬期の立山一帯における旅客の安全と環境保全ならびに自然保護に対する理解の周知徹底を行い万全を期してまいりました。

また、今後とも立山トンネルトロリーバスを始めとする環境にやさしい輸送手段の維持更新、ごみ処理対策の徹底、緑化推進・美化清掃活動の推進などを行ってゆくほか、外来植物の繁殖等への対策として、21年度営業再開時より、アルペンルート主要駅に「足拭きマット」を設置するなど、引き続き、立山の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

これからも自然公園法の目的に添い、「自然にふれあい、自然のすばらしさを知ってもらえるよう」観光と環境保全の調和を図り、関係機関と連携して立山黒部の大自然を広く紹介してまいりたいと存じます。

5 宇奈月国際ホテルの経営委託

宇奈月国際ホテルにつきましては、個人消費の低迷や旅行形態の変化等の影響を受け、営業環境は年々厳しさを増す中、積極的な誘客活動と効率的運用による経費の節減に努めてまいりました。

この度、経営環境を踏まえた一段の改善策導入の必要性に鑑み、宇奈月国際ホテルの経営を、平成21年4月1日をもって、当社の子会社で、ホテル立山および弥陀ヶ原ホテルを経営する立山貫光ターミナル株式会社へ委託して、ホテルを一元経営することいたしました。

これにより、運輸事業は当社が、ホテル事業は立山貫光ターミナルが担当することとし、それぞれの担当事業に専念する体制となります。当社では、引き続きホテルの主要設備を保有し、その維持管理は当社が行ってまいります。また受託する立山貫光ターミナルでは、ホテル3館の経営一元化により、運営コストの圧縮と、販売力の強化により、グループとしてホテル事業収支の改善を図ってまいります。

単体財務諸表

貸借対照表の要旨

(平成21年3月31日現在)

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|-------------------|---------------|-----------------|---------------|
| (資産の部) | | (負債の部) | |
| 流動資産 | 688 | 流動負債 | 1,215 |
| 現金及び預金 | 473 | 支払手形 | 72 |
| 未収運賃 | 1 | 買掛金 | 16 |
| 売掛金 | 8 | 短期借入金 | 667 |
| 未収金 | 5 | 未払金 | 111 |
| 商品 | 13 | 未払費用 | 22 |
| 飲食用材料品 | 8 | 未払消費税等 | 44 |
| 貯蔵品 | 80 | 未払法人税等 | 151 |
| 前払金 | 21 | 預り金 | 6 |
| 繰延税金資産 | 67 | 賞与引当金 | 122 |
| その他の流動資産 | 5 | 固定負債 | 2,650 |
| 固定資産 | 11,264 | 長期借入金 | 1,735 |
| 鋼索・索道・無軌条電車事業固定資産 | 3,218 | 退職給付引当金 | 844 |
| 自動車事業固定資産 | 290 | 役員退職慰労引当金 | 69 |
| 付帯事業固定資産 | 2,655 | | |
| 各事業関連固定資産 | 2,288 | 負債合計 | 3,866 |
| その他の固定資産 | 49 | (純資産の部) | |
| 投資その他の資産 | 2,762 | 株主資本 | 7,343 |
| 関係会社株式 | 2,066 | 資本金 | 4,160 |
| 投資有価証券 | 92 | 利益剰余金 | 3,508 |
| 出資金 | 1 | 利益準備金 | 444 |
| 長期貸付金 | 15 | その他利益剰余金 | 3,064 |
| 関係会社長期貸付金 | 107 | 自己株式 | △325 |
| 繰延税金資産 | 31 | 評価・換算差額等 | 741 |
| その他の投資等 | 447 | その他有価証券評価差額金 | 741 |
| 資産合計 | 11,951 | 純資産合計 | 8,085 |
| | | 負債・純資産合計 | 11,951 |

損益計算書の要旨

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

| 科目 | 金額 |
|---------------|-------|
| 鋼索・索道・無軌条電車事業 | |
| 営業収益 | 3,007 |
| 営業収益 | 2,391 |
| 営業利益 | 616 |
| 自動車事業 | |
| 営業収益 | 1,136 |
| 営業収益 | 1,094 |
| 営業利益 | 41 |
| 付帯事業 | |
| 営業収益 | 1,545 |
| 営業収益 | 1,763 |
| 営業損失 | 217 |
| 全事業営業利益 | 440 |
| 営業外収益 | 51 |
| 営業外費用 | 61 |
| 経常利益 | 429 |
| 特別損失 | 83 |
| 税引前当期純利益 | 346 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 160 |
| 法人税等調整額 | 17 |
| 当期純利益 | 168 |

※「付帯事業」には「構内販売その他事業」、「ホテル事業」が含まれております。
 ※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

株主資本等変動計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | | | 評価・換算差額 | 純資産合計 | | |
|---------------------|-------|----------|-------|----------|---------|-------|---------|-------|--------|-------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | | | 株主資本合計 | |
| | | その他資本剰余金 | 利益準備金 | その他利益剰余金 | 利益剰余金合計 | | | | | |
| 前期末残高 | 4,160 | | 432 | 2,800 | 220 | 3,453 | △178 | 7,435 | 763 | 8,198 |
| 当期変動額 | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | 11 | | △125 | △113 | | △113 | | △113 |
| 当期純利益 | | | | | 168 | 168 | | 168 | | 168 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | △149 | △149 | | △149 |
| 自己株式の処分 | | | | | | | 2 | 2 | | 2 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | | | | - | △21 |
| 当期変動額合計 | - | - | 11 | - | 43 | 54 | △147 | △92 | △21 | △113 |
| 当期末残高 | 4,160 | | 444 | 2,800 | 264 | 3,508 | △325 | 7,343 | 741 | 8,085 |